



より良い生き方・社会をめざして

校長 木村 知広

1学期の皆さんの姿を振り返ると、真剣に授業に臨む姿、元気よく挨拶をする姿、団結して運動会に臨む姿、協力して班活動に取り組む姿、係・委員会活動等に責任をもって取り組む姿、部活動に本気で打ち込む姿など、本当に数多く皆さんの素晴らしい姿に出会うことができ、校長として本当に嬉しく思います。皆さん、本当によく頑張りました。ありがとうございました。

また、1学期を終える今、自分自身のさらなる成長と、目標の実現に向けて、1学期の自分を振り返ることが大切です。具体的な振り返りの方法（内省）は次のとおりです。

- ①できたこと、できなかったことを含めて自分の言動を客観的に振り返る。
- ②振り返りをもとに、今後も継続する点と改善する点を見つ找出す。
- ③その継続する点と改善する点をいつ行うかなど、具体的な計画をたてて実行する。



夏季休業は自分自身で計画を立てて生活できるチャンスですから、ぜひ、上記の振り返りをもとに、具体的な計画をもとに有意義な夏季休業にして欲しいと願っています。皆さんの頑張りとより一層の成長を期待しています。

さて、「首都直下地震」が今後30年以内に70%の高い確率で発生すると言われており、みなさんは生涯のうちにこの大きな震災に直面すると考えられています。このような中、私たちは、日常から避難訓練や安全指導、集団下刻訓練等で防災意識を高め、自らの身を自分で守る力（自助）を高めるとともに、身近な人たち同士で助け合う**共助**の力も高める必要があると考えています。緊急時に助け合うことの大切さについて私が心に残っていて忘れられない話を紹介します。

シュピールベルクさん一家

東日本大震災の発生した2011年3月11日、ドイツから日本観光に来ていた3人家族が塩釜市で被災した。地震の後すぐに仙台に向かおうとして乗り込んだタクシーが多賀城市に差しかけた時、津波に飲み込まれた。命は助かったものの、遠い異国の地で頼る人もなく母国に帰る手段も見つからず途方に暮れていたが、**善意の人々のリレー**（下記参照）によってシュピールベルクさん一家は、新潟・東京を経由し、無事にドイツに帰ることができました。このお話はドイツのテレビで「善意の日本人に救われた」と報じられ、日本のテレビでも紹介されました。

○**庄司武志さんの救出**： 仙台へ向かうタクシーごと津波に流されたシュピールベルクさん一家は、窓から脱出して民家のバルコニーへ泳ぎ着きました。そこで庄司武志さんという男性が、一家3人を水の中から引き上げて救い出しました。

○**庄司武志さんの民家での励まし**： 庄司さんは、避難先の民家にいた老夫婦とともに、暗く凍えるような寒さの中で一家を励まし続け、落ち着かせました。

○**避難所の人々の温かい支援**： 12時間後に救助隊によって多賀城市の避難所へ運ばれると、多くの日本人から温かい食事や毛布を差し出されました。また、避難所の人々が携帯電話を貸してくれたおかげで、ドイツの息子さんと連絡を取ることができました。

○**小湊忠さんによる支援**： 避難所のリーダーであった多賀城市職員の小湊忠さんは、一家が仙台市の国際交流センターへ向かえるよう、女性2人が乗る車を手配しました。出発の際、小湊さんはシュピールベルクさんにこっそりとガソリン代を持たせてくれました。

○**羽賀友信さんと松本興太さんによる支援**： 仙台の国際交流センターでは、センター長の羽賀友信さんが新潟経由で東京に戻るルートを提案してくれました。さらに一家は、新潟県村上市に住む羽賀さんの友人、松本興太さんの自宅に1泊させてもらい、そこから新幹線で東京へ辿り着くことができました。

皆さん、善意の人々のリレーの話を読んで、どのような感想をもちましたか？ドイツのテレビで

この話が報じられた際、娘のヨハンナさんは、「温かい日本人の心と、新潟へ向かう途中の一面の雪景色は決して忘れることができない」と涙ながら話していました。また、それを受けて日本のメディアでも取り上げられ、庄司さんは、「無事帰国できて良かった。あの時は目の前のことしか考えていなかった」、小湊さんは、「外国から来て困っていた。人間として何とかしたい。ただ、それだけでした」など当時を思い出して語りました。

このように、みんなが緊急かつ困難な状況の中でも、**生命を大切すること、互いに助け合い、励まし合うこと、相手に寄り添うこと、思いやりのある心を忘れないこと**、そして**多くの人々がこれらのことを大切にしていること**で、善意の人々のリレーが完成したと考えています。

また、この善意のリレーが完成した背景には、決して緊急時だからできたという訳ではないと思います。日頃から、生命、助け合い・励まし合いこと、寄り添うこと、思いやりの心を大切にしているからこそ、難しい状況の中でも大切なことを忘れずに「**共助**」を実現できたと考えます。



さらに、この話は続きます。無事帰国することができたシュピールベルクさん一家は、過酷な状況でたくさんの日本人が示してくれた思いやりに、何とかこたえたいと、所属するロータリークラブに募金と呼びかけ、2万ユーロ（約230万円）を多賀城市へ送りました。さらに、震災孤児を支援するプロジェクトにも参加し、5万ユーロ以上の募金を集め送ったそうです。日本の人々から受けた思いやりに対して、感謝の気持ちを形に表してくれたことに私は感動しました。

他者に対する思いやりと感謝の心を通して具現化される温かい社会。この実現をめざすことが、まさにより良い生き方であり、実現に向けた取組等がより良い社会につながると実感しています。

皆さんが夏期休業明けに登校してくる9月1日は防災の日ということで、この話を紹介しました。様々な災害に備え、自助・共助の具体的な対策をしっかりと行くとともに、より良い人間関係を構築すること、そして素敵な学校をつくりあげることも大切です。そのためには、日頃から思いやり心と感謝の心をもって、多様な人と協働することを大切にしていきましょう。

それでは、さらなる成長に向けて、充実した夏季休業をお過ごしください。

生徒の活躍

○令和8年度板橋区中学校総合体育大会 バスケットボールの部

男子 優勝
女子 優勝

○令和8年度板橋区中学校総合体育大会 バドミントンの部

男子団体 準優勝
男子個人 ペア 優勝

○第72回全日本中学校通信陸上競技大会TOKYO

男子共通4×100m R 第7位
共通女子1500m 第8位

○第39回区内中学生剣道錬成大会

中学女子一年生の部 準優勝

○第65回東京都中学校総合体育大会剣道大会

男子団体戦 出場



学校行事等のお知らせ

本校ホームページの赤二中日記では、学校行事等の様子を公開しています。右のQRコードもしくは下記のURLからご確認ください。また、玄関にも生徒の活躍等をサイネージとして公開しています。ご来校の際にはぜひご覧ください。

<https://www.ita.ed.jp/swas/index.php?id=1320142&frame=weblog>



赤二中日記